第 2012-23 号

恵みと真理のニュース

2012 年 12 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　豊かな信仰の実を与えてくださって感謝します。

私は仏教の家庭で生まれ、親が愚像を捧げる姿を見ながら育ちました。青年時代にはお母さんが私の財布にお札をこっそり入れましたが、無駄な物だと言いながら、燃やしました。
その後1983年、お母さんはチュンナム(韓国の地名)にある教会に行き始めました。当時、私も固い信仰はもっていませんでしたが、お母さんと一緒に礼拝を捧げることはとても好きでした。お母さんはイエス様を救い主と受け入れてバプテスマを受けました。そして権士に任命されて一生懸命に信仰生活をしましたが、2011年神様の御呼びによって天国へ行きました。
私は1983年度に結婚をしました。そして1985年、職場移動によってアンサン(韓国の地名)へ引っ越ししました。当時、近所に住んでいた恵みと真理教会の区域長夫婦が私たち夫婦を伝道するために来ましたが、私たちは忙しいからという言い訳で教会に行こうともしていませんでした。
ある日、職場での事故によって脊椎手術を受けました。手術はとても大変でしたが、回復するためにもっと辛い時間をおくりました。そしていろんな方法で治療を受けましたが、特に変わりはありませんでした。そのとき偶然、ただ主イエス様しかいないということに気づき、イエス様に頼る人生を歩むと決心をしました。
1988年、恵みと真理教会へ出席してイエス様を救い主と受け入れました。当会長牧師先生の御言葉を聞く中でたくさんの恵みを受けて涙が止まりませんでした。私の信仰生活は足りないところが多くありましたが、子どもたちには主日を守らなかったりすることに関しては厳しく叱るときもありました。
私は区域長に任命され最初、感謝の心をもって頑張って礼拝を捧げ、区域の人たちの面倒をみました。しかし、体が回復されて元気になっていくうちに信仰生活も奉仕もよそにするときが多くなりました。お金を稼ぐことに集中し、主日礼拝を捧げることもやっとのことになりました。その後、幸いなことに聖霊様の働きによって当会長牧師先生の御言葉と教区長の勧めで再び信仰を回復することができました。過去、物質のため頑張っていたときの生活を繰り返してみたら信仰生活も物質も得になったとこがありませんでした。しかし神様中心の生活に戻ったことによって神様が大きく祝福してくださいました。
切ない心をもって祈りつづけたら願っていたどおりに4階建ての一軒家のマイホームを与えてくださいました。今は一つの建物の中に会社と家があってとても楽です。ところでとても残念なことは、このように神様から大きく祝福されていますが、聖徒としてタバコを辞めることができなくとても心辛かったです。そして神様にタバコを辞めるように祈りながら努力しました。ある日、口から涼しい何かでいっぱいになっていることを感じました。その後タバコを完璧に辞めることができました。ハレルヤ！今は神様の前で堂々と信仰生活をすることができて、喜びをもって奉仕をしています。そして2006年度には按手執事に任命されました。
私には二人の娘がいます。子どものごろからちゃんと信仰生活をするために気遣って育てました。現在、長女は教会で今の旦那と出会いました。そして教会学校の先生として奉仕をしています。二女は教会でバイオリン演奏で奉仕をしています。神様が私たち家庭に時による助けの恵みを与えてくださって信仰の家庭に成らせてくださったことを心から感謝しています。“人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。”という御言葉のように30倍、60倍、100倍の豊かな恵みで満たしてくださって感謝します。また、58会区域長セミナで20年勤続賞をもらう栄光を与えてくださって感謝します。区域長セミナのとき当会長牧師先生のメッセージのように聖霊様に頼りながら聖霊様の能力によって神様が与えてくださった務めに就き、まじめに働く者となることを祈ります。

[信仰コラム]　神様の能力が現れるためには

“そして、イエスは、彼らの不信仰のゆえにそこでは多くの奇跡をなさらなかった。(マタイ13：58)”

私たちは信仰告白として使徒信条を暗記します。それは“神は全地の造り主”と始まります。私たちが信じて仕える神様が全能なる方であること、その事実はとても大きな意味をもっています。全能なる神様が我々のお父様であること、その事実も私たちには言葉にできない大きな慰めと喜び、希望となります。これは神様が選んだ人々のため、その能力を表してくださるのです。
神様は我々を救い、癒し、助けるため全能なる能力を表してくださいますが、それは私たちの意志的な決断と行動をとおして現してください ます。したがって、我々は神様が能力を与えることに関して知識をもってこれを自分に適用すべきです。
第一、神様の能力を体験するためには神様に祈るべきです。神様の溢れみに頼る者、神様の助けを求める者を追い出すことはありません。男女老若の身分を差別することはありません。イエスキリストの御名によって祈ることを聞いてくださり全能なるその御手で最善の答えを与えてくださいます。そのため、祈らないことは一番愚かなことであり、一番悪い弊害なのです。我々の意志的な決断による祈りを助け主の神様の意志につなげるべきです。神様の能力はまこころをもって切なく祈る者に現れます。
第二、信仰をもって行動するべきです。12年の間長血をわずらっている女性がいました。彼女はイエス様のうわさを聞いて‘私がイエス様の着物に触れると、出血が治る。’と強い信仰をもってイエス様の前に行きました。そしてイエス様の着物に触れました。そのとき、主の権能が流れ、すぐに病気が治りました。それは彼女が信仰の手を伸ばしてイエス様の着物に触れたからです。
また、信仰の言葉を使うべきです。聖書の御言葉は我々がどんなことにあっても信仰の言葉ができるようにその根拠を提供しています。信仰の言葉は神様の能力とつながります。私たちがイエス様に相応しい信仰の言葉をして、福音に相応しい信仰の言葉を使うと神様が能力を与えてくださいます。
第三、神様に捧げるべきです。神様が私たちに何かをしなさいと要求することが私たちに重荷を背負うことではありません。むしろ、神様が責任を背負うためなのです。足りないことを私たちに要求することはありません。ただ、私たちの必要を満たしてくださるためなのです。十分の一献金は神様が私たちに重荷を背負わせることではなく、神様が責任をとるため与えてくださった契約であり、命令なのです。
ベッセダ荒野で男の子一人が持ってきた食べ物をイエス様に捧げたとき、イエス様がその食べ物の上に祝福して5千名以上が食べて残るぐらいの能力をお見せしたのです。
第四、神様に感謝するべきです。聖書には神様への感謝をとおして表してくださる神様の能力についてたくさん記録されています。
ヨシャファト王の時代、モアブとアンモン、メウニムの人々が同盟してユダ国を侵略しました。ユダ国は軍事的な戦いで勝つこともできない状況でした。それで王は聖歌隊を組んで軍の前に立たせ、神様に感謝しながら賛美するように珍しい戦術を使いました。その結果、アンモン子孫とモアブとセイル山地の人々お互いが戦い合って全滅しました。それでユダの人々は戦わず勝利することができて、たくさんの戦利品を得ることができたのです。みなさんは神様が聖書で啓示した教えに従い、意志的な決断をして実践することによってみなさんの人生の中で神様の能力が満ち溢れますようお願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

まことの永遠な幸せ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

‘幸せ’という言葉は東西古今を問わずすべての人に一番人気ある言葉です．幸せと言うのは嬉しくて楽で豊かな状態を意味します．どんな状況でも喜んでふくよかで暖かい心で生きて行く幸せな人々がいます．これらをよく見れば何部類があります．第一，万事を超脱するほど修養になった人がいます．第二，自分が処している状況をまともに把握することができなくて心が楽しくて楽な人がいます．その外に幸せになるしかない理由たちを持った人がいます．これは救世主によったことで消滅するとか奪われることができない理由たちです．人がこの世の中を生きる間はそれなりに幸せに暮すと言っても死んだ後に永遠な刑罰に処されたら彼の一生の幸せは意味ないことになってしまうでしょう．
死は決して自分の存在の滅絶ではないです．人の死んだ後状態に対して聖書にとても明らかに啓示されています．**“一度死ぬことは人に決めたことでありその後には審判があるから”（ヘブル 9:27）**しました．イエスキリストが親しくおっしゃるのを **“もしあなたの片手が罪を犯させるなら切り捨てなさい片の手で永生に入って行くのが両手を持って地獄の消えない火に入って行くよりよい　もしあなたの片足が罪を犯させるなら切り捨てなさい両足がそろったままで　地獄に投げ入れられるよりは　片足で永生に入って行くのがよい　地獄ではうじがつきず火も消えることがない　もしあなたの片目が罪を犯させるならそれを抜き出しなさい両眼がそろったままで地獄に　投げ入れられるよりは片目になって神の国に入る方がよい　地獄ではうじがつきず火も消えることがない人ごとに火として塩打つようにすることを受けよう”（マルコ 9:43～49）**しました．
イエスキリストがおっしゃったラザロと金持ちの比喩には死んだ後陰部に入って行った金持ちがアブラハムに訴える場面を通じて死んだ後に経験する苦痛と感情状態をあざやかに現わしています．金持ちが陰部で苦痛の中に目をあげて遠くアブラハムことと彼の胸にあるラザロを見て懇請しました．**“父アブラハムよ　私をあわれんでくださいラザロをおつかわしになってその指端に水をぬらして私の舌を冷ややかにさせてください私がこの火炎の中で苦しみもだえています”（ルカ 16:24）**．アブラハムが答えるのを **“あなたたちと私たちの間に大きいな淵が込めておいてあってここであなたたちに渡ろうとするができなくてそこで私たちに渡って来ることもできない”（ルカ 16:26）**しました．すると 火炎の中で苦痛する金持ちがアブラハムに懇請するのを **“それではお願いしますラザロを私の父の家に行かせてください私の兄弟五つがあるから私どもに証拠するようにして私どもにこの苦しむ所へ来ないようにしてください”（ルカ 16:27,28）**しました．
神様が啓示なさったお話です．地獄の刑罰を否定すると言っても地獄は消えないです．地獄を否定するとか美化するものを言うのではなくその所へ行かないように対策を講ずる方を選ばなければなりません．これは難しくないです．イエスキリストがその道です．
誰でもイエスキリストを信じるだけで地獄刑罰の問題は完全に解決されます．罪から救われて義のあるようになるから地獄の刑罰に処する審判を完全に免れるようになります．イエスキリストがおっしゃるのを **“神様がその息子を世の中に送ったことは世の中を審判しようとするのではないです私によって世の中が救われるようにしようとなさるのだ私を信じる者は審判を受けないことです信じない者は神様のイエスキリストの名前を信じないのでもう審判を受けたのであると”（ヨハネ 3:17,18）**しました．もう審判を受けたというお話は審判が不可避だということを強調する言葉です．罪から救われる唯一の対策であるイエスキリストを排斥する人は審判を避ける永遠にとてもないです．だからイエスキリストを信じない以上真の幸せはないです．イエスキリストを信じれば幸せな者になるまことに永遠な理由を持つようになります．
罪から救われて義のあるようになって刑罰の審判を免れることは基本です．その外にも幸せにする多くの理由たちが許るされて約束されました．神様のお子になって天国を企業で受けた者になります．将来キリストが再臨なさる時復活して変化された身を着るようになるでしょう．また祈祷の応答を受けるようになります．すべての仕事が合力して善を成すようになることを経験するようになります．信じる者に従うさまざまな標的を体験するようになります．聖霊様の教えることと引導を受けて生きて行くようになります．そして聖霊がくださる権能を受けて福音を伝えて主の仕事に力をつくすので将来に神様から褒め言葉と賞を受けるようになります．このようなものなどを幸せな理由で列挙する人がまことに幸せな人です．聖徒たちはイエスキリストによる幸せな理由たちを持ったから幸せな人らしく住まなければなりません．ところで実際は幸せを充分に享受することができずに暮す 聖徒たちがたくさんあります．この時間その原因をよく見ます．そして皆さんにもしそういう弊端があれば果敢できっぱりと退けてください．

第一、比較劣等感を退けなければなりません．

他人と比べると比較劣等感を持つようになるとか比較優越感を持つようになります．比べて人より優れれば優越感を持つようになります．その優越感が高慢なの精神を発動させるようになります．高慢の心を持つようになれば他人を見下げて無視する行動をするようになります．聖書には高慢になることを警戒するお話がたくさんあります．**“高ぶりは滅びにさきたちであり誇る心は倒れにさきたちである”（箴 16:18）しました．ヤコボ書には“神様が 高慢の者を退ける”（ヤコボ 4:6）**したし，ペテロ書には **“神様が 高慢の者を対敵する”（ペテロ一 5:5）**しました．
ところで高慢を生む比較優越感以上に悪いことは比較劣等感です．カインは比較劣等感によってねたみが極まって弟アベルを野で呼び出して殺しました．イエス様のタラント比喩に出る一つタラント受けたしもべは五つタラントと二つのタラント受けた仲間と比べてひどい劣等感を持つようになりました．その比較劣等感が主人に対する否定的な偏見を作りました．そして自分の合理化の役目を作り出して怠けました．その結果主人が旅行から帰って来てしもべたちと計算する時彼は悪しくて怠けなしもべだと責めるのを受けるようになったし持ったことも奪われて外暗いところで出して追い出されました．比較劣等感はこのようにねたみを生んで不平になるようにして意欲を喪失するようにして自暴自棄に至るようにします．そして自分は不幸だという考えに捕らわれるようにします．
神様が作った万物は非常に多様です．このような多様性は神様の腕前で神様の旨です．だから私たちは知能と才能と外貌と能力と趣向がお互いに違うのが神様の腕前で神様の旨と攝理というのを悟って相互尊重しなければなりません．もちろん競争社会に住んでいる以上比較をするものと決まっているがその比較が自分発展のための努力の同期になるようにしなければなりません．そして自分と違う点を確認して認めて調和を成して行かなければなりません．

第二、孤独感を退けなければなりません．

ある日イエスキリストが弟子たちを連れてサマリアの‘スカル’という村に至りました．弟子たちは食べ物を買おうと村に入ったしイエス様が井戸の周りに座りました．時は正午くらいでした．あるサマリア女が水を汲みに井に来ました．村の女人たちの水を汲む 時は概して朝と夕方で村の女人たちが一緒に井に来ます．ところでこの女人は一人でそれも正午に井に来ました．この女人は五回や結婚と離婚を繰り返えした数奇な人生を暮しました．女人はイエス様としばらくうちの対話を通じてイエス様がメシヤというのが分かるようになりました．すると女人は完全に変化されました．女人は水がめをそのままそこにおいて町に駆け付けて自分がメシヤに会ったと伝えて人々を連れてイエス様のところに来ました．村人々は女人の変化された姿を見ました．孤独に捕らわれていた女人が明るくて活気に満ちた姿に変化されたことを見て皆イエス様に出ました．
幸せに関して人々をよく見ればこのようです．自分が一番不幸だと考える人がいます．あるいは自分は幸せな時より不幸な時がもっと多いと思う人がいます．あるいは深く修養して自足して心に平定を失わないので幸せを享受する人がいます．あるいは他人と比べて自分は優越だと思う時幸せを感じる人がいます．あるいは真の幸せ者がいます．真の幸せは永遠な幸せに起因したのです．イエスキリストを信じて救援を得た者にならなくては永遠な幸せに参加することができません．イエスキリストを信じる人は永遠な幸せ者で真の幸せ者です．だからこの世の中に泊まるうちに比較劣等感や孤独感におぼれる理由がないです．聖徒の皆さんは幸せの理由を一つ一つ捜し出して享受して“草幕や宮廷や私の主イエスキリストを仕えた所がそのどこや天国”と心から湧き出た讃尿を呼ぶようになるように願います．